

## 親鸞仏教センター連続講座「親鸞思想の解明」

## 『浄土を求めさせたもの—『大無量寿経』を読む—』⑤

## 光顔巍巍—出世本懐の証明—

親鸞仏教センター所長 本多弘之



本多弘之 所長

連続講座「親鸞思想の解明」の第11回と第12回が、東京国際フォーラム（有楽町）で行われた。第11回では「五徳瑞境—く世—」に立つことの意義について、第12回では「く自在—」ということの意味について、センター所長・本多弘之が問題提起を行い、参加者の方々との間で活発な質疑応答がなされた。ここでは、先に行われた第10回からその一部を紹介する。（研究員 羽塚高照）

## ■ 救われ難き存在

『無量寿経』（『大無量寿経』）の序分で、対告衆である諸菩薩が広く大きな功德をもった存在として説き示され、最後に、一切の衆生が対告衆の視野に入ってきて、その段が終えられます。つまり、ここでは、お釈迦さまが教えを説くときの視野が、目の前で教えの言葉を聞いている存在だけではなく、それを遙かに超えて、時間的にも空間的にも広がって、あらゆる世界の衆生に響くような真理を語ろうとされることが示されているのだらうと思います。

そして、いよいよ教えを説き始めようとするお釈迦さまは、全身が喜び出し、姿色は清浄であり、「光顔巍巍」（『真宗聖典』東本願寺出版部、6頁。以下、『聖典』と略称）として、つまり、「お顔全体が大きな光となっている」と表現されています。すなわち、阿難はお釈迦さまが何かを説こうとしていることを感じて立ち上がり、「今日、世尊、諸根悦予し姿色清浄にして、光顔巍巍とまします」（『聖典』7頁）

と申し上げるわけです。阿難は、釈尊の従兄弟で、ほぼ同じ歳に生まれて、お釈迦さまの一番身近に、いつも付き従って教えを聞いていたと伝えられます。それで、お釈迦さまが亡くなった後、教えを記録しようとなったときには、記憶力が抜群であった阿難の言葉が依り処になった、と伝えられています。しかし、そのぐらい身近にいたにも関わらず、お釈迦さまは「あなたは必ず仏に成る」という「授記」を、阿難にはなされなかったと言われます。

どうも、阿難という方は、慈悲心があるというか情にもろいというか、そういうお方であつたらしいのですが、出家して修行する者にとって、日常性の方向に眼を向けたり、感情をもつたりすることは、世俗に戻ってしまうことですから、それを断ち切って修行しなくてはならない。出家主義の教えでは、そう教えるわけですが、ところが阿難は、どうしてもそうはなれない。お釈迦さまは、阿難がそのような出家の道では仏に成れないということを見抜かれて、授記をなさらなかったのだらうと思います。阿難はお釈迦さまの一番身近にいた。しかし、仏法の真理性に触れることができなかつた。そういう存在が、この『無量寿経』の対告衆であり、教えを聞いていたということが、非常に大事な意味をもっている、と親鸞聖人は着目したわけでしょう。

## ■ 出世本懐の証明

日本に伝わってきた仏教の学びとしては、

『涅槃経』や『華嚴経』が一番大事な經典とされてきたところに、親鸞聖人は『無量寿経』こそ「大経」である、仏陀の願いが本当に実現している經典である、と見られたわけです。衆生は小さい。しかし、仏陀の願いは、あらゆる衆生を包んで、真理を呼びかけていこうとする大いなる用<sup>はたら</sup>きです。その『無量寿経』の会座<sup>えざ</sup>に立った釈尊は、阿難の前に、光り輝くお姿で立ち上がられた。ここから親鸞聖人は、お釈迦さまがこの世に現れた本当の意味は、この經典（『無量寿経』）を説くためであったのだ、と見られたわけです。全身が光り輝いたということは、それこそが「出世本懐」であり、この世に生まれた意味を初めて発見した喜びを象徴しているのが「光顔巍巍」であると。

こういう意味で、親鸞聖人は『教行信証』「教巻」で、『無量寿経』のこの箇所を引かれる直前に、「何をもってか、出世の大事なりと知ることを得るとならば」（『聖典』152頁）という言葉添えておられるわけです。その『無量寿経』が教える本願の真実は、「ひとえに親鸞一人がためなりけり」（『歎異抄』『聖典』640頁）である。こういう感動が、この「光顔巍巍」こそが出世本懐の証明だ、と感じさせたのでしょうか。

さらに阿難は、「今日、世尊、奇特の法に住したまえり」（『聖典』7頁）と、以下、「今日」を4回繰り返しながら、「世雄」「世眼」「世英」「天尊」と言葉を変えながら、お釈迦さまの徳を讃めていきます。阿難が、いま、ここに、光り輝いているお姿に出遇っている事実において讃めているわけです。

いま、本願の教えとして、存在の真理を一切衆生に分ち与える方法が見いだされた、そういう直感が内に響いたお釈迦さまには、いわゆる「努力主義」や「自力主義」ではないかたちで真理を感じ取っていける道が開ける、そういう新しい教えの説き方が見えてきた。それを、い

ま説かんとするお釈迦さまが、喜びにあふれて立ち上がられた。お釈迦さまの中に本願が動き出して、本願が、いま言葉になってあふれ出ようとする力、それが「光顔巍巍」、あるいは「奇特の法」として阿難の眼に映っているということではないかと思います。

本当の意味で、十方群生海を平等に仏にしよう大地が開かれた。一切の衆生が、平等に仏地をいただくことができる。こういう視野が、お釈迦さまが本願を説こうというところに、ふつふつと沸いてきて、そのことがお釈迦さまの姿を輝かせているのです。（文責：親鸞仏教センター）

### 公開講座「親鸞思想の解明」のご案内

本講座は公開（無料）で開催しています。

記

日時：2008年3月25日(火)午後6時30分～9時  
4月 休会  
5月 7日(火)午後6時30分～9時

場所：有楽町・「東京国際フォーラム」Gブロック

JR、地下鉄ともに「有楽町」駅より徒歩1分

テキスト：『真宗聖典』大 ¥3,500、小 ¥3,000

ご希望の方は、下記（京都・東本願寺出版部）まで。

TEL 075-371-9189 FAX 075-371-9211

<https://books.higashihonganji.jp>

### 本多弘之所長の講演録

#### 「親鸞思想の解明」が本になりました

本欄でも取り上げてきた「親鸞思想の解明」（全47回分：2001年11月から2006年8月までの講演記録）が、3巻本として樹心社から出版されました。

発行書籍 四六判上製

第1巻『浄土 その解体と再構築』（320頁）

（序文：文芸評論家 吉本隆明氏）

第2巻『浄土 その響きと言葉』（256頁）

（序文：社会評論家 芹沢俊介氏）

第3巻『浄土 大いなる場のはたらき』（281頁）

（序文：帯津三敬病院名譽院長 帯津良一氏）

価 格

各巻共に1冊2,600円  
（送料・税別）

問い合わせと申し込み

樹心社

TEL 042-577-2778

FAX 042-577-2758

